

経営比較分析表（平成29年度決算）

神奈川県 松田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	14.49	1,458	

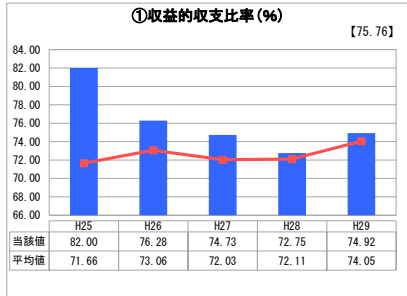
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,249	37.75	297.99
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,632	23.31	70.01

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



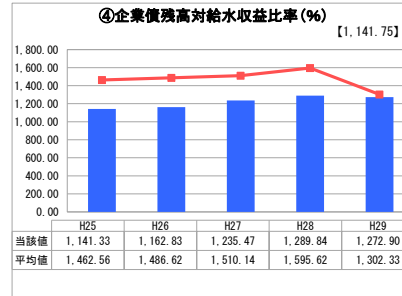
「単年度の収支」



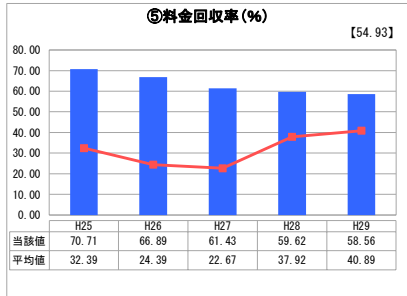
「累積欠損」



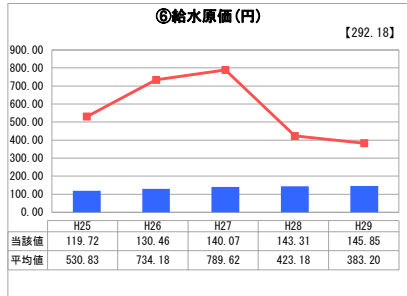
「支払能力」



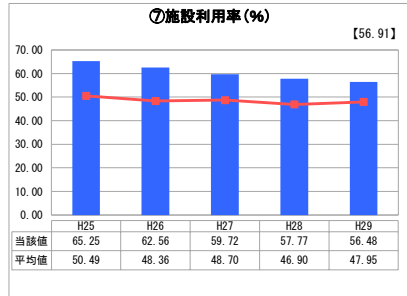
「債務残高」



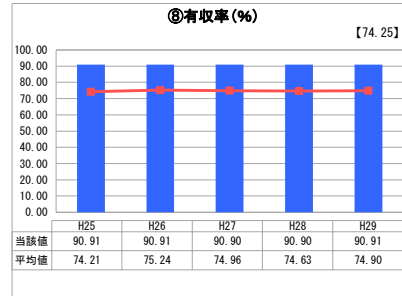
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

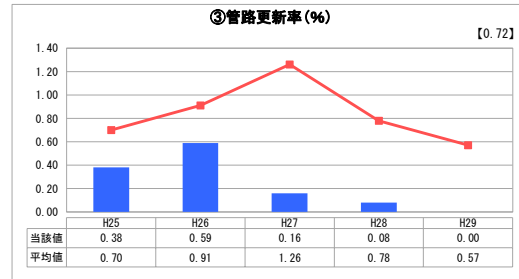
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は類似団体平均値を若干上回っているものの、水道使用料収入は、給水人口の減少や節水意識の定着などにより減少し、この傾向は続くと推測いたします。

また、給水原価は現在は固定的経費が多いため微増の状況ですが、施設の老朽化が進む中、改良・改修に係る費用を企業債に依存しているため、増加を見込んでいます。これら、給水収支の減少と費用の増加を一般会計繰入金で賄っており、計画的かつ効果的な経営を目指す必要があります。

2. 老朽化の状況について

簡易水道事業の系統間バックアップの体制としては、現在、弥勒寺水源と弥勒寺第2水源で相互に水量を融通できるので、弥勒寺水源系統と宮地田代水源系統は互いにバックアップが行えます。一方、宇津茂水源系統では水源間の管路が無くバックアップ体制がありません。弥勒寺水源系統とは送水管バルブで仕切られています。万が一、宇津茂水源に事故が発生した場合にも、安定した供給が行えるように、弥勒寺水源系統からの管路を用いたバックアップの可能性について検討をおこなっております。

また、竣工から年月を経た老朽化・経年化施設、管路については、毎年計画的に更新を行っていき、管路の安全性を高めています。

全体総括

厚生労働省の水道ビジョンでは、給水人口10万人以下の中小規模事業所においては、有収率95%以上とすることを目標にしています。現在、当時の寄簡易水道事業の有収率は90.9%で、収益に直結しない、無収率は9.1%です。これを3年計画で、漏水調査を行い有収率アップに繋げたいと考えています。目標は、無収率を5%以内といたしました。このことにより維持管理費の更なる削減を図ることができます。

また、平成6年度に料金改定を行ってから年数が経過しており、今後も続くと予測される人口減少などを考慮すると、水道料金の見直しが必要と言えます。平成31年度以降、適正な料金改定のための審議に入ります。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。